

1 学校教育目標
(1) 校訓「誠実・剛健・礼節」を基盤に置き、本校のすべての教育活動を通して、知・徳・体の調和の取れた生徒を育成する。 (2) 「ものづくりを通じた人づくりの教育」を実践しながら、社会の変化に的確に対応し、自立して将来を切り拓く主体性のある生徒を育成する。 (3) 各科の特性を生かした取組を行い、家庭・地域社会から信頼される学校をつくる。

2 本年度の重点目標
(1) 専門高校として、ものづくりを通じた人づくり教育を推進する。 (2) 確かな学力の育成と進路実現に向けた取組を充実する。 (3) 心身ともに健康で、豊かな心をもった生徒を育成する。 (4) 地域社会と連携し、各科の特性を生かした特色ある学校づくりを推進する。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	教育目標(スクール・ミッション)に基づく教育活動	教育目標(スクール・ミッション)の生徒・保護者と達成度	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の75%以上が、教育目標(スクール・ミッション)を理解している 職員の98%以上が、工業教育の推進に積極的に取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> 集会やPTA総会、学校HP等による生徒、保護者への周知と理解促進 高校教育課や日本キャリア開発協会等の外部機関と連携したキャリア教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒で教育目標を知っていたのは71%に留まっており、評価規準に併せて授業で説明したり、集会で話したりして周知する必要がある。 工業教育の推進に積極的に取り組んでいると答えた職員は100%であった。
	特色・魅力ある学校づくり	ものづくり教育の魅力発信、部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した小中学生向けのものづくり活動を2回以上実施する 生徒の95%以上が、部活動が活発と感じる(特にあてはまると感じる生徒は50%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 地元大型商業施設との連携 部活動への加入促進及び活動実績のPR 	B	<ul style="list-style-type: none"> 地元大型商業施設と連携した工作教室や地域の祭りでの木工教室が実施でき、ものづくり教育の魅力が発信できた。 部活動が活発に行われていると感じる生徒は94%で、特にあてはまると感じている生徒は50%であった。
	業務改善及び働き方改革	校務改革の推進、職員の超過勤務の削減	<ul style="list-style-type: none"> 職員朝会の9割以上をオンラインで実施する 週平均45時間以上の超過勤務者数を昨年度比で20%以上削減する 	<ul style="list-style-type: none"> chromebookの活用とWi-Fi環境の整備 働き方改革の方針(仕事を減らす、みんなでやる、要領よくやる)の再周知 	B	<ul style="list-style-type: none"> 特に対面での実施を要する場合以外は、全ての職員朝会をオンラインで実施した。 週平均45時間以上の超過勤務者は、15人から14人と7%減に留まった。
学力向上	基礎学力向上	基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 普通教科における基礎学力の向上 資格取得による基礎学力の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別授業及び個別指導の充実 基礎力診断テストの結果分析の検証 リスニング英語検定(全国工業高等学校長協会主催)1、2年生全員受検 	B	<ul style="list-style-type: none"> 数学で習熟度別指導を行った。 1回目を6月、2回目を1月の年2回実施することができ、その結果を生徒面談に活用した。 10月にリスニング英語検定試験を1、2年生全員が受検し、昨年度より13人増加の154人が3級以上に合

	自学力の育成	学習意欲向上	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びを育成する 学習意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話を通して、自己の考えを広げ深める 調査前学習会を実施することにより学習意欲を高める 	B	<p>格した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が発表や説明をする場面を設定できた。 調査前学習会を必要な生徒に対し毎学期実施することができた。 各教科によって、ICTを活用し、生徒の学習意欲を向上させることができた。
	授業力の向上	分かる授業、興味関心を持たせる授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の公開授業、研究授業週間の実施 年2回の授業評価アンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業・研究授業週間における教員相互の授業参観を充実させる 一人一台端末により、授業評価アンケートを実施し、スピード感をもって授業改善に活用する 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1学期は6月、2学期は11月と、2回の公開授業、研究授業週間を実施できた。 生徒1人ひとりがchromebookでアンケートを回答し、その集計結果をすぐに授業担当者へ知らせることができ、授業改善に活用した。 授業評価アンケートを2回実施し、平均は3.5点/4点以上高い評価が得られた。
キャリア教育	キャリア教育の充実	進路意識向上と進路目標の明確化	<ul style="list-style-type: none"> 5S教育を柱に豊かな人間性の育成と、主体的な進路選択ができる能力を養う 	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ、工場見学、キャリアガイダンスの実施 進路情報の定期的な提供 講話、面談による職業観と進路意識の確立 進路LHRの系統的な活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1年1学期、外部機関と県の協力で、2度のキャリアガイダンスを実施。考えや感情を言葉にして表現する方法、他者の話を聞き取る方法を学べた。 新規内容での進路LHRのため結果は次年度以降となるが、自己理解や職業理解の取り組み方を提示できた。
	目標進路の達成	就職、公務員指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 進路内定率100% 県内定着率の向上 早期離職の防止 	<ul style="list-style-type: none"> 面接指導と試験対策による就職、進学内定率100%の実現 熊本しごとコーディネーターと連携した進路指導の充実 気軽に個別面談や相談できる場作り 企業との連携を密にすることでミスマッチを防ぐ 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定のための相談、面談等、しごとコーディネーターと連携し実施できた。 就職試験の不調者、進学試験の不調者ともに、十分な聞き取りをし、次に繋げることができた。 1、2年生の進路相談件数が少ない状況がある。さらに、進路指導部からの情報発信を増やしたい。 公務員技術職受験の指導に専門学科の先生の協力が得られ、合格へつながった。
生徒指導	規範意識	ルールやマナーを守る態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動の未然防止及び全職員による生徒指導の実施 情報モラルに関する指導の 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部通信等による重点指導事項の周知 「語先後礼(5秒間)」の徹底 事後指導を含め 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各科・学年等と連携しながら指導を行い、生徒の規範意識を高めることができた。 年間を通して「語先

			充実	た「特別な指導」の充実 ・情報モラル教育講演会の実施		後礼（5秒間）」の指導を徹底することができた。 ・特別指導件数・人数は、昨年度とほぼ同じであった。
	基本的な生活習慣	基本的な生活習慣の確立	・遅刻者の削減 ・社会人としても通用するレベルの清々しい挨拶、端正な服装の実践	・登校指導による挨拶及び整容指導 ・頭髪服装指導に向けた事前指導の徹底 ・各種集会時の指導徹底	B	・年間を通して登校指導や遅刻指導を行ったが、同一生徒が複数回遅刻指導を受けることが目立った。 ・頭髪服装指導に向けて、生活委員会で事前チェックを行うなどの取組を行ったが、再指導者を減少させることができなかった。 ・頭髪服装指導の基準やチェック体制の見直しが必要である。
	交通安全	交通安全意識の高揚	・交通事故をなくす ・交通違反をなくす ・自転車の2重ロック率100%	・交通安全講話の実施 ・登下校指導の実施 ・原付通学生への指導徹底 ・交通委員会活動の充実	A	・県教育委員会の交通安全教育の指定を受け、交通安全知識テストなど、多くの取組を実施することができた。 ・原付通学生への指導が徹底できたため、通学状況は大変良好であった。 ・交通委員会の活動が活性化し、2重ロック率100%を達成できた。
	自主性、社会性の育成	生徒会活動の活性化	・生徒会行事の充実 ・委員会活動の活性化 ・ボランティア活動への積極的な参加	・生徒会行事の計画的な企画立案や運営と生徒会役員の自主性の涵養 ・毎月の各種委員会実施 ・ボランティア活動の周知と奨励	A	・コロナ禍のため、例年とは違う形態であったが、体育大会や北辰祭を実施することができ、生徒が中心となる場面を作ることができた。 ・各種委員会の活動が大幅に活性化しつつある。 ・コロナ禍でボランティア活動の奨励はできなかった。
人権教育の推進	人権教育の計画的推進	〈生徒対象〉身の回りにおける人権意識の向上	年間指導計画による確実なLHRの実施 1年：身の回りの差別 2年：差別の現実 3年：就職差別と人間解放	・人権教育実践委員会におけるLHRに向けた資料・教材作成および学年会における事前学習会の実施	B	・1学期は、全学年でいじめ問題と新型コロナに関する差別についてのLHRを行った。3学年は就職差別について学習した。今年度は、全学年で北朝鮮による拉致被害も学んだ。
		〈職員対象〉人権教育に関する研修をおとした意識の高揚	・人権教育実践委員会定例会の実施 ・校内研修の年2回実施 ・校外研修への参加	・関係機関と連携した校内研修会やレポート研修会の充実 ・地区、県における研修会やオンライン研修会への参加	B	・人権教育関係法令の研修をはじめ、生徒の状況に関するレポート研修、宇城人権大会での講話視聴、宇城学人研大会への参加を行い、職員の人権教育力を高め

						た。	
	命を大切に する心を育む指 導	命を大切に する心を育む指 導の推 進	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携して講演会やLHR等を年2回以上実施 各教科において、命の大切さについて生徒に考えさせる教材を取り扱う 	<ul style="list-style-type: none"> 教科、学年、生徒指導部等連携し、学校活動全体をとおして計画的に取り組む LHRの振り返りを行い、学びを深める 関係機関との連携、各教科の指導内容の検証と情報共有 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の人権教育LHRでは、いじめに関する学習と新型コロナに関する差別について学習した。また2学期には、北朝鮮による拉致被害者に関する動画「めぐみ」を視聴し、拉致問題について深く知るとともに、命の大切さや家族の絆等について深く考えることができた。 	
いじめ の防 止 等	未然防止	啓発活動の 推進	<ul style="list-style-type: none"> いじめを許さない環境を整え、いじめが発生しない雰囲気醸成 言語環境を整える 	<ul style="list-style-type: none"> いじめについて考えるLHRを実施 いじめ防止の行動目標の設定 学校生活の様々な場面におけるいじめ防止の取組の実践 相手を思いやる言葉遣い等言語環境の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各科・学年・クラス等で、いじめの未然防止や、いじめに発展する可能性がある生徒間でのトラブル等について、部署や職員間で情報を共有しながら対応することができた。 生徒及び職員の言語環境の整備を行うことができた。 	
	早期発見	いじめ発見 の取組の推 進	<ul style="list-style-type: none"> 年間3回以上のアンケート調査実施 担任による面談を随時実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回のアンケート調査の実施 通報アプリの周知 学級担任、教科担任、部活動顧問等による情報の共有 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎に面談週間やアンケート調査を実施し、いじめの早期発見に取り組むことができた。 各科会・学年会等で、生徒の状況等についての情報を共有することができた。 	
	発生した 場合の対 応	いじめの実 態把握	いじめの実 態把握	<ul style="list-style-type: none"> 迅速ないじめの実態把握 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会を中心に、学科・学年・各部署が連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> 関係部署・職員が連携しながら、迅速な実態把握を行うことができた。
		被害者への 対応	被害者への 対応	<ul style="list-style-type: none"> 被害者の心のケア 	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラー等と連携した心のケア 	A	<ul style="list-style-type: none"> 担任や副担任、科職員等で連携しながら対応することができた。
		加害者及び 周囲の生徒 への対応	加害者及び 周囲の生徒 への対応	<ul style="list-style-type: none"> 加害者及び周囲の生徒に対して必要な指導と心のケアを迅速に実施 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ問題対策委員会が中心となり、被害者の思いを理解させる 	B	<ul style="list-style-type: none"> 加害者の特定ができず、当該学年への全体的な指導しかできなかった。 現在、いじめ行為は止んでいるが、担任や副担任、科職員等で継続して見守りを行っている。
	再発防止	再発防止の ための取組	再発防止の ための取組	<ul style="list-style-type: none"> 取組についての検証を各学期に実施 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会や関係部署間の情報交換と取組の検証 	A	<ul style="list-style-type: none"> 委員会での検証を全職員に周知し、再発防止に向けた取組につなげることができた。
地域連 携 (CS など)	開かれた 学校づく り	総合型コミ ュニティ・ スクール	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の学校運営協議会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会委員との連携を密にし、色々な立場から学校運営等の意見を聴く 地域と連携した学 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を学期毎に年3回実施することができた。 地域及び企業との連携した取組の提案を受けることができ 	

				校運営 ・学校評価に対する学校運営協議会委員からの意見聴取		た。 ・学校側の報告以外にも協議会への要望など内容を充実させる必要がある。
		・地域と連携した学校運営	・PTA総会の出席率70%以上（欠席者集会含む） ・学年別保護者会への参加率65%以上	・学校安心メール等を活用し、保護者へ学校情報を提供 ・PTA役員と連携し保護者の参加を促す ・PTA保護者集会の内容を精査する	B	・学校安心メール、HPで学校情報を提供することができた。 ・PTA総会の出席率が71.1%であった。また、学年別保護者会への参加は約62%にとどまりコロナ禍で学校行事への参加が低迷した。
特別支援教育	特別支援教育への理解と支援の推進	教職員の専門性の向上	・特別支援教育に関する職員の意識高揚と授業等での実践	・研修会等の職員への周知 ・研修会への積極的な参加 ・校内職員研修の実施	B	・高等学校エリア会議や特別支援教育推進会議などに参加し、見識を広めることができた。 ・巡回相談を利用して特別支援学校より助言を受けることができた。 ・情報共有のための生徒理解研修は実施しているが、専門性向上のための職員研修が実施できなかった。実施を次年度の課題にする。
		生徒の学校生活の保障	・多様な生徒への早期対応及び合理的配慮の提供 ・情報共有	・生徒理解研修の実施 ・教育相談の充実 ・進路保障に向けた適切な指導 ・健康教育部と学年及び学科との連携強化	A	・各学期開始前に生徒理解研修を行い、情報共有をすることができた。 ・SCの面談を定期的実施できた。 ・さまざまな課題を持った生徒に対し、自立に向けて進路指導部、学年、科と連携し支援することができた。
教育環境整備及安全	環境教育の徹底	環境美化への意識付け	・掃除の徹底 ・教室ゴミの分別 ・エコステーションでの分別点検	・美化委員による清掃状況点検 ・美化コンクールの実施 ・通学路の清掃活動	B	・ウイルス蔓延による学級閉鎖がコンクールや通学路清掃活動実施期間と重なり、十分な成果を残せないクラスもあった。
		電力消費量の削減	・節電と新型コロナウイルス感染防止の両立	・職員室南面のグリーンカーテン設置 ・節電の呼びかけ	A	・毎月の電気や水道の使用量の通知等、新しい試みが出来た。 ・節電や節水の意識向上を図ることができた。
		図書館教育の充実	・生徒1人あたりの年間貸出数10冊以上 ・朝読書の徹底 ・蔵書の整備と充実	・広報活動や図書委員会活動の充実 ・学習に資する図書の選定 ・蔵書の電算化と整備	B	・1月末の貸出冊数は一人あたり8.3冊で昨年度と同じであった。 ・データベースの入力は、83%から98%まで進んだ。
		安全管理の徹底	健康管理	・新型コロナウイルス感染拡大防止対策	・紙面やHP、放送等を活用した保健指導	A

			<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察の充実 ・熱中症対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・マスクの着用及び手指消毒徹底 ・教室やトイレのアルコール消毒の実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員によるトイレの消毒活動も継続実施した。
--	--	--	--	---	--	--

4 学校関係者評価						
<ul style="list-style-type: none"> ○1年生において、日本キャリア開発協会及び県教育委員会の協力を得て2回のキャリアガイダンスを行ったが、企業でも人材育成に必要な観点であり、見通しと振り返りを持たせる取組として評価された。 ○生徒のスマートフォンの利用については、学校周辺で歩きながらの使用が複数回見受けられ、危険性を感じたと指摘があった。また、家庭での利用ルールの遵守についてチェックしてはどうかと提言をいただいた。 ○土木系人材の育成と確保は産業界としても喫緊の課題であり、行政の支援を受けての就職支援と併せて受検生増加を検討していく必要があると意見をいただいた。 						

5 総合評価						
<ul style="list-style-type: none"> ○県教育委員会より交通安全教育研究の指定を受け、2年間にわたり研究を進めた結果、生徒の交通安全に関する知識が高まり、規範意識が向上した。成果として、原付での通学状況が大変良好となった。 ○県内就職率は61.4%まで上昇（H28：38.5%→R3:59.5%）し、しごとコーディネーター事業の成果が着実に現れている。 ○多様な生徒への早期対応と合理的配慮の提供に向け、各学期開始前に生徒理解研修を行い、情報を共有するとともに、巡回相談を利用して特別支援学校から助言をいただくなど、支援体制が充実しつつある。 ○入学者選抜の倍率は、前期（特色）選抜が1.95（R4:1.84、R3:1.62）、後期（一般）選抜（出願変更後）が1.08（R4:0.93、R3:0.72）と、いずれも年々上昇している。 						

6 次年度への課題・改善方策						
<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全指導に関しては、生徒の歩きスマホや自転車乗車時のヘルメット着用等、新たな課題が確認できる。2年間の研究指定で得た知見をもとに引き続き指導を行い、研究の成果を地域に還元したい。 ○就職指導が堅調に進む一方で、生徒の自己理解や企業研究は、年々その精度が低下してきている。キャリアガイダンスを継続して実施し、キャリア教育の充実を図る必要がある。 ○特別な支援を要する生徒への対応は、今後多様化していくと予想される。SCやSSWをはじめ、特別支援学校、児童相談所等との連携を更に密にして、家庭の困り感に寄り添った支援体制を構築していきたい。 ○新型コロナの感染症法上の位置付けが、5月8日に季節性インフルエンザと同じ5類に引き下げられることにより、教育活動が徐々に元に戻っていく見通しである。また、次年度は本校創立50周年の節目の年として、記念行事を複数計画している。これを学校行事の実施時期や内容等を見直す好機と捉え、教育の質の向上を目指したい。 						